

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	211003	学校法人名	華陽学園		
大学名	岐阜女子大学				
事業名	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	1412人
参画組織	文化創造学部，デジタルアーカイブ研究所，文化情報研究センター，衣食住生活研究センター，長寿健康栄養学センター				
事業概要	<p>知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し，新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により，地域課題に実践的な解決方法を確立するために，地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。このことにより，地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として，地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに観光資源の発掘を行う。</p>				
事業目的	<p>○本事業は，地域に根差し地域社会に貢献する大学として，本学独自で育ててきたデジタルアーカイブ研究を活用し，地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって，地域課題の実践的な解決や伝統的産業の活性化並びに新しい文化を創造できる人材育成を行い，岐阜地域の知の拠点となる大学を目指すものである。</p> <p>○具体的には，岐阜県が掲げる地方創成イノベーション計画に呼応し，以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と観光資源について，デジタルアーカイブ化とそれの利活用を行い，それぞれの振興と発掘を行う。地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し，地域で新たな価値を創造できる人材の養成を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興(飛騨地区) (2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと世界遺産登録への支援(美濃地区)</p> </div> <p>○上記資源のデジタルアーカイブ研究では，リアルタイムに情報を更新する本学独自の「知の増殖型サイクル」(図1)を用いて地域課題の解決(図2)に取り組み，人材養成に適したカリキュラムと教材テキストの開発を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>図1 知の増殖型サイクル</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>図2 地域課題解決のためのデジタルアーカイブ構想</p> </div> </div> <p>○知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し，新たな知を創造するという岐阜女子大学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により，地域課題に実践的な解決方法を確立するために，地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。</p> <p>○このことにより，地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として，地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに新たな観光資源の発掘を行うことができる。また，本研究を，地域のフィールドにおける実証検証をするための研究として捉え，解の見えない地域課題の解決をするための地域資源デジタルアーカイブとそのメソッドを確立する。</p> <p>○この地域資源デジタルアーカイブは，学生自らが，その地域資源を有効的に活用し，新たな知を創造するという「知の創造サイクル」を生かして，地域の様々な解の見えない課題に主体的に向き合い，地域課題を解決すると共に，地域に貢献する大学として，地方創成イノベーションの実現と県内の地域の伝統産業の振興並びに観光資源の発掘を行う大学を目指す。</p>				

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	211003	学校法人名	華陽学園
大学名	岐阜女子大学		
事業名	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業		
事業成果	<p>○飛騨高山匠の技デジタルアーカイブに加えて新たに郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブを開発するために、伝統的な生活・文化の資料を広く収集し、デジタルアーカイブ化を進め、「知の増殖型サイクル」を構成し、地域資源デジタルアーカイブに必要な情報の推進を図る。</p> <p>【事業成果1】 (http://digitalarchiveproject.jp/)</p> <p>○下記のテーマで地域のデジタルアーカイブを実施し、Webで公開すると共に、100年保存のためのデータベースを構築した。 (http://digitalarchiveproject.jp/)</p> <p>①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構築（3年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ数：79,166点/100,000点（2019年度達成目標） ：達成度 79% <p>②郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの構築（3年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ数：72,025点/50,000点（2019年度達成目標） ：達成度 144% <p>【事業成果2】</p> <p>○大学デジタルアーカイブの機能として、本学のデジタルアーカイブにおける「知の増殖型サイクル」のための実態調査を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①沖縄首里城の復元における鎌倉芳太郎のデジタルアーカイブの有効性について調査 ②Wander沖縄デジタルアーカイブにおける10年経過後の状況の調査と課題分析 ③テキスタイルマテリアルセンターにおけるデジタルアーカイブの有効性調査 ④岐阜県におけるデジタルアーカイブの有効性調査 ⑤沖縄・飛騨「おうらい」の冊子の有効性調査 <p>【事業成果3】</p> <p>○地域住民への事業の成果の還元とデジタルアーキビストの養成のために、地域住民を対象とした各種報告会や講習会を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2018.2.4：私立大学研究ブランディング事業報告会～デジタルアーカイブin 高山～を開催 ②2018.2.23-25：私立大学研究ブランディング事業報告会～沖縄デジタルアーカイブセミナー～ ③2018.3.18：飛騨匠フォーラムin飛騨センターの記録と調査 ④2019.2.23：私立大学研究ブランディング事業報告会～デジタルアーカイブin 郡上～を開催（206名参加） ⑤2018.12.18-2019.2.23：私立大学研究ブランディング事業～準デジタルアーキビスト資格取得講座（全5回）を開催（22名参加） ⑥2018.12.12-2019.2.11：高校生のためのデジタルアーカイブクリエイター資格取得講座開催（富山・沖縄・岐阜） ⑦2020.2.11：私立大学研究ブランディング事業報告会～デジタルアーカイブin 岐阜～を開催（175名参加） ⑧2019.12.12-2020.2.11：高校生のためのデジタルアーカイブクリエイター資格取得講座開催（郡上・岐阜） <p>【事業成果4】 (http://digitalarchiveproject.jp/result/result2020/)</p> <p>○下記のテキスト資料を開発し、人材養成の講座などで活用した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①飛騨高山匠の技とこころ、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書、2017 Vol.1 No.1 ②飛騨高山匠の技、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書 2018 Vol.1 No.1 ③沖縄デジタルアーカイブセミナー、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書 2018 Vol.2 No.1 		

	<p>④デジタルアーカイブ カイブ の資料管理の基礎、地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業成果報告書 2018 Vol. 3 No. 1</p> <p>⑤昭和・平成を駆け抜けた～報道記事から見る岐阜の偉人たちの素顔～報告書</p> <p>⑥岐阜市における地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成報告書</p> <p>⑦「デジタルアーカイブの利活用の課題 ～ デジタルコンテンツの提示・提供、課題解決、知的創造へ～」報告書</p> <p>⑧各務原市空き家リノベーション事業報告書</p> <p>⑨学修支援資料デジタルアーカイブの共有化および成果の公開と評価に関する研究報告書</p> <p>⑩郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ資料集(上) (総ページ数: 872ページ) (2021. 3. 8)</p> <p>⑪飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ資料集(上) (総ページ数1177ページ) (2021. 2. 8)</p> <p>⑫歴史探訪 飛騨高山匠の技の発刊 (2021. 3. 15)</p> <p>⑬郡上探訪「郡上であそぼ」の発刊 (2020. 11. 10)</p> <p>⑭飛騨高山匠の技探訪「飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ」発刊 (2020. 11. 10)</p>
<p>今後の事業成果の活用・展開</p>	<p>1. 「知の増殖型サイクル」と地域資源デジタルアーカイブ</p> <p>地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業では、リアルタイムに情報を更新する本学独自の「知の増殖型サイクル」を用いて地域課題の解決に取り組み、人材養成に適したカリキュラムと教材テキストの開発を行った。</p> <p>知的創造サイクル専門調査会は、2006年2月に「知の増殖型サイクルに関する重点課題の推進方策」を策定し、知の増殖型サイクルの戦略的な展開のための具体的方策を提言している。</p> <p>この「知の増殖型サイクル」は、記録→活用→創造という循環サイクルのことをいい、これをデジタルアーカイブのサイクルとしてと捉えると、収集・保存した情報を活用・評価することにより、新たな情報を創り出すというサイクルとして捉えることができる。そこで、この知の増殖型サイクルをデジタルアーカイブに捉え直した。</p> <p>この「知の増殖型サイクル」を具体的に地域課題に適用し、知の増殖型サイクルとしての大学や地域資源デジタルアーカイブの効果測定モデルの開発を試みた。このことにより、その地域資源デジタルアーカイブのオープン化と共にそのデータを有効的に活用し、新たな知を創造する本学独自の「知の増殖型サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す手法を確立した。</p> <p>2. 地域課題の解決手法の開発</p> <p>地域の伝統文化を支える財源確保のためのエビデンスの整備は喫緊の課題であり、また、税金だけでなく、社会的投資等外部資金の確保のためにもデジタルアーカイブへの投資効果を明らかにすることが求められる。また、デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会が平成29年4月に提言した「我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性」においても、評価指標の見直しを提言している。こうした状況を踏まえて、本研究では先に示す地域課題を取り上げ、それぞれのデジタルアーカイブの社会経済的效果及び意識的效果を構造的に且つ定量的に分析することで、地域の伝統文化政策立案、財源確保への有効なモデルとした。</p> <p>一般に、社会的価値の評価手法には、私的財としての価値と公共財としての価値並びに文化財としての価値がある。私的財としては、例えば、産業技術を考えたときに、これらの売り上げや商品開発などがそれにあたる。一方、伝統文化のような技術を考えるときには、私的財より公共財・文化財としての価値がある。例えば、将来世代のために維持したいとする遺贈価値、または、地域のアイデンティティや誇りとしての威信価値、その他、地域の雇用の創出や所得としての経済的価値がそれにあたる。</p> <p>本事業では、地域振興に有効なデジタルアーカイブの効果を検証するために、社会経済的效果と意識的效果の測定手法の併用による項目関連構造分析手法で定量的に分析した。これによって、事業の効果を事前・事後にシミュレーションできるようになるとともに、効果の予測や効果が出なかった場合の検証ができるようになり、当該事業を継続させるために必要な財源確保に有効な論理的根拠の導出が可能になった。</p> <p>3. デジタルアーカイブの新しい利活用</p> <p>知識基盤社会においては、様々な正確で良質な知識の集合体の整備が重要であるが、知識循環型社会の実現においては、様々な知的資料を集積した知識の集合体をどのように利活用するかが重要になる。また、様々な利用者が活用するためには結果よ</p>

りも作業のプロセス情報が必要となる。意思決定結果より、意思決定のプロセスのほうが必要となる。即ち、知識循環型社会においては結果のアーカイブよりプロセスのアーカイブが必要となる。

デジタルアーカイブについても、最終的な作品より作品を作成しているプロセスのデジタルアーカイブが重要となる。今回、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブについては、一位一刀彫や飛騨春慶塗の製作過程をデジタルアーカイブしている。このように、デジタルアーカイブする対象についても、知識基盤社会と知識循環型社会とは異なり、利活用することにより、新たな知識を創造する社会（知識循環型社会）に対応したデジタルアーカイブをする必要がある。(3)

今回、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを交通・観光での活用方法について研究した。

知識循環型社会においてデジタルアーカイブした飛騨高山の匠の技データベースが、10万件近い情報を非公開長期保存型データベースに保管している。この地域資源デジタルアーカイブを交通・観光に活用するために、デジタルサイネージへの展開を考えた。

4. 総括

本学では、デジタルアーカイブの拠点大学として2013年より、その「知の増殖型サイクル」を開発し、観光、教育分野で人材育成の試行研究を行ってきた。その研究成果として、沖縄県の小学校では有意な学力の向上が認められ、デジタルアーカイブの利活用が本事業の推進に有効との感触を得ていた。

本事業究では、デジタルアーカイブをさらに有効的に活用し、新たな知を創造する本学独自の「知の増殖型サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出すことを目指した。そのためには、地域の課題を抽出することから始め、大学の知識を集約して地域資源デジタルアーカイブを構築し、このデジタルアーカイブを有効的に活用し、地域の課題を実践的な課題解決の方法を導き出す人材養成のための、デジタルアーカイブの構築することができた。

この地域資源デジタルアーカイブは、学生自らが、その地域資源を有効的に活用し、新たな知を創造するという「知の創造サイクル」を生かして、地域の様々な解の見えない課題に主体的に向き合い、地域課題を解決すると共に、地域に貢献する大学として、地方創成イノベーションの実現と県内の地域の伝統産業の振興並びに観光資源の発掘を行う大学を目指す。

地域資源デジタルアーカイブでは、自分の生まれた地域のさまざまな文化資源などをデジタルアーカイブしてみることににより、これまでに気付かなかったさまざまなものが、素材を通して見える。この地域のデジタルアーカイブは、このようにさまざまなことを発見し、理解を深めていく上で大切な教育活動である。

また、地域資源デジタルアーカイブには、地域の人々の参加が必要となってくる。特に、地域の資料の収集、デジタル化には、地域の実情に応じた活動が重要であり、今後、地域住民たちが身近な場で地域のデジタルアーカイブをすべきである。このためには、学生自らが自分たちの「地域資源」としていかに主体的に発見・収集・整理することができるかが課題である。また、このような地域の人々や、大学、学校、社会教育施設などとの協働によるデジタルアーカイブの活動を、地方創成イノベーションの実現における教育活動の一環として捉えることが重要である。

デジタルアーカイブは、単なる記録ではなくて、研究成果、「知」を集積することがデジタルアーカイブに問われている。大学が大学としてのアイデンティティを確立するためにも、「知」の拠点としての地域資源デジタルアーカイブを含めた総合的な大学デジタルアーカイブを構築することが求められている。

本学が発展展開しようとするデジタルアーカイブの研究やデジタル・アーキビストの養成は、文部科学省よる私立大学研究ブランディング事業を本学が受けた成果であり、今後は継続してデジタルアーカイブ研究に取り組むとともに新たな教育課程を構築することが社会的な責務である。